

## 第149回葉隠フォーラムのご案内

I 日時 平成23年2月4日(土)午後1時00分 (会費 3,300円)

II 場所 〒105-0004 東京都港区新橋2-4-2 電話番号 03 (3580) 2211

新橋亭 新館 (JR新橋駅日比谷口徒歩3分) <http://www.shinkyotei.com/shop.htm>



III 今回のテーマ「鍋島直茂の初詣と伊達政宗」

IV 前のご報告と今回への取り組み

明けましておめでとうございます。今年も宜しく願い致します。

さて、前回は、佐賀にいらっしゃる八田千恵子さん主催の『草茫々通信』に私の文章が載ることになりましたので、それを種にお話ししました。題は『高柳父子』『拝領妻始末』に見る滝口さんの主張 新米の『組織法』に抗う『愛情』と『筋』です。何やらものものしい題になってしまいましたが、滝口さんと言えば、私が高校生の頃は『切腹』という映画で有名でした。これは竹光で切腹するといういささか怖い話で、私のような者にはあまり気持よいものではなく、その後ご本人に会って一緒に葉隠の故地を回ったりはしたものの、すっかりご無沙汰になっているうちに亡くなれてしまいました。

しかして今回、八田さんから講談社文庫の『一命』すなわち先の『切腹』をリメイクした映画の元になった本をお預かりし、何編かの小説を読んでみると、さすが滝口さん、しっかり「2つの武士道」の違いを踏まえ、かつ、滝口さんとしては戦国時代のいわば融通の利いた話しを、見事に江戸中期以降の「抜けば玉散る氷の刃」のごときシャープな小説に仕立てられておられることに感動しました。

このように抽象的に申し上げたのではよく分かりませんので、もう少し詳しく言いますと、「高柳父子」は追い腹を切らないで周りにせがまれ、とうとう立ち腹を切った父の息子が、当時既に追い腹をしたならばその藩自体が取り潰されるという運命にあったにもかかわらず、敢えて追い腹を切ったという話。また、「拝領妻始末」は会津藩の世継ぎにからんで家来に下げ渡された元側室が、その家来との間に真の愛情を芽生えさせたにもかかわらず、殿様との間に生れていた息子が世継ぎになるというので再び城に戻されてしまい、でも決して世継ぎの母としての対応を取らず、愛情を貫いたというような話です。

つまりは、滝口さんの小説の中には、私の言う華夷変態に伴うところの研ぎ澄まされた組織法と人間の情や筋を通す意志といったものとのぶつかり合いが極めて清冽な形で出ていると思います。何しろ小説をほとんど読まない私としては、たいした批評も出来ませんが、もし、『草茫々通信』をじかにお読みになりたいという方は、その他にいろいろ実のある論稿もありますので、直接八田さんまでお申込みください。1冊 500円です。書肆草茫々の連絡先は〒849-0922 佐賀市高木瀬東5-12-6、電話 0952-31-1608 です。

さて、次回は、お正月は色々な意味で多忙のため、2月4日にずらしまして、昨年同様会費も食事・資料込みの3,300円ということで、新橋亭さんで昼食会を行わせていただきます。参加の方は嘉村まで必ずご連絡ください。嘉村 孝 平成24年1月1日 (Tel 03-3261-5860 fax 03-3264-8456 [kamura@eurus.dti.ne.jp](mailto:kamura@eurus.dti.ne.jp)) ■なお、今回、ホームページ「東方からの見聞録」を作ることになりました。従前の「武士道バーチャル博物館 <http://hagakurebushido.jp/>」よりも広く、世界の歴史と文化を語りたと思っていますが、始動は正月明けからです。ご興味ある方は是非。